



## 私の喜び（館岩自然の教室報告）

校長 千 明 勉

朝晩吹く風に、少しずつ秋の気配が感じられるようにもなりました。しかし、9月中は残暑が厳しく、熱中症予防の観点から、屋外での運動や遊びが制限されることが多くありました。子どもたちは、「友達と外で遊びたいな」という思いを強く抱いていたことでしょう。

さて、5年生は9月6日から8日まで、福島県南会津町にあるさいたま市立館岩少年自然の家に出掛けました。幸いなことに、3日間とも天気に恵まれ、予定していた活動をすべて実施し、一生忘れることのない多くの思い出を持ち帰ることができました。前日までは雨や曇りの日が続いていたようです。自然の家の職員には、「お子さんたちの日頃の行いがよいからでしょうか」などと声を掛けていただきましたので、一旦素直に受け止めることにしました。

毎年引率している館岩自然の教室ですが、今年は何だかたくさんほめられたことがありました。1つ目は、子どもたちの様子。本校の活動を担当してくれた自然の家職員が二つのことを具体的に評価してくれました。ひとつは、元気なあいさつや返事。普段からよくあいさつや返事をする子どもたちばかりですが、自然の家ではいつになくたくさん子どもたちがサボらず、誰に対しても気持ちのよいあいさつや返事をしていました。もうひとつは、時間を厳守して活動すること。食事や入浴の開始時間など、なんとほぼすべての活動をオンタイムで開始することができました。自然の家の職員には、「160人もいる子どもたちが時間通りに集合して活動できることは本当に素晴らしいこと」だと最高の賛辞を送っていただきました。

2つ目は、本校職員の指導の様子。各部屋で使用した毛布などを片付ける退所の点検では、本校の職員が的確な指示を出しながら子どもたちと一緒に活動したようです。別の自然の家職員が私に「熱心な先生たちで素晴らしいと思いました」とこっそり打ち明けてくれました。

これらの評価については自然の家職員から子どもたちに、校長から職員にフィードバックしていますので、今後の学校生活や教育活動につなげてもらいたいと大いに期待しているところです。

これからお知らせする出来事は、実はまだ誰にも伝えていません。いわば私しか知らない出来事です。今年は福島の地元の品物をお土産として購入できるように、「道の駅たじま」に寄りました。すると私と同年代くらいの男性が、いつもの黄色ベストを着用していた私に近付いてきて声を掛けてきました。子どもたちが何か迷惑をかけてしまい、お怒りなのかなと勝手に想像しました。すると、その男性が、「校長先生ですか。さっき私が落とした百円玉を拾って届けてくれた子どもがいたんですよ。私、うれしくなってお礼を言いたかったんですけど、いなくなってしまったので、せめて自分の気持ちを伝えたいと思って」と。誰が拾って渡してあげたのかは分かりません。本来ならば、誰かを見付けて、その男性の気持ちを伝えることが子どもの成長や自立につながるのかもしれませんが、しかし、私は5年生の子どもたちのなかに、親切で優しい子どもたちがいることに満足してしまいました。春岡の子どもや春岡の職員がほめられることは、私の喜びです。

10月も本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



